

MUSASHINO PARK-LIFE MAGAZINE

むさしのパークライフマガジン

MPM

2018
SPRING
SUMMER
VOL.9



YOUR PARK LIFE : Park Life × 水

FOCUS : 水がめぐる武蔵野台地マップ

ESSAY : ヴィンテージのピクニックカップ

公園からはじまる、気持ちのいい一日。

季節を感じ、ほっとできる場所。

なにもしない、贅沢な時間。

……きっと、公園で過ごす時間は暮らしを豊かにする。

私たちは、そんなことを思っ日々公園で働いています。

公園を使いこなすと、どんなライフスタイルが待っているのか。

この「MUSASHINO PARK-LIFE MAGAZINE」では、

ちょっと素敵な自然のこと、

いままで気づかなかった生きものの不思議、

暮らしを豊かにする公園の使いこなし方、などなど。

公園で働く私たちだからこそお届けできる、

“パークライフ (Park Life)”の魅力をお伝えしていきます。





野川（都立武蔵野公園付近）

Park Life

×

水

武蔵野の大地を旅する水のものがたり

都会に暮らしていると、大地に降る雨が多くの生き物を育み、
地中をめぐり川となり、海に還っていく大きな循環の中に
私たちの暮らしがあることを忘れてしまいがちです。

公園にはそんな水の力をそのまま感じ取ることができる場所がたくさんあります。
あなたも一滴の雨つぶとなったつもりで、水辺をめぐる旅にでかけましょう。



地表に降った雨は、中にゆっくりゆっくり吸い込まれ、武蔵野台地の地下水となって流れていきます。それは地面の中にある川。その地中の川はいくつかの場所で湧き水となって、草木を潤し、周辺の生態系をつくり、自然豊かな人々の暮らしを支えてきました。

地表がコンクリートで覆われてきた近年、ゲリラ豪雨など急激に降った雨はコンクリートの上をすべり、下水をあふれさせて問題になっています。公園は、雨が土に染み込み、天然の貯水池となる、都市の貴重なグリーンインフラなのです。

夏の子どもたちの
あそび相手。





武蔵野台地の地表は、水はけのいい乾いた土地。でも、地面の下には雨水が染み込んだ地下水がたっぷりと流れています。だから、井戸を掘ると地中で濾過されたきれいな水があふれ出るのです。

真夏の暑い日、小さな流れに足をそっと浸したり、水しぶきをあげて歓声を響かせたり、子どもたちは、冷たくて気持ちのいい水で遊ぶことが大好きです。公園にある水遊び場のいくつかは、そうした地下から汲み上げられた井戸水や、湧き水の流れをそのまま開放するなど、天然の水に触れることができる貴重な場所なのです。

たくさんの生きものを
育てる。



カワセミ





オニヤンマ



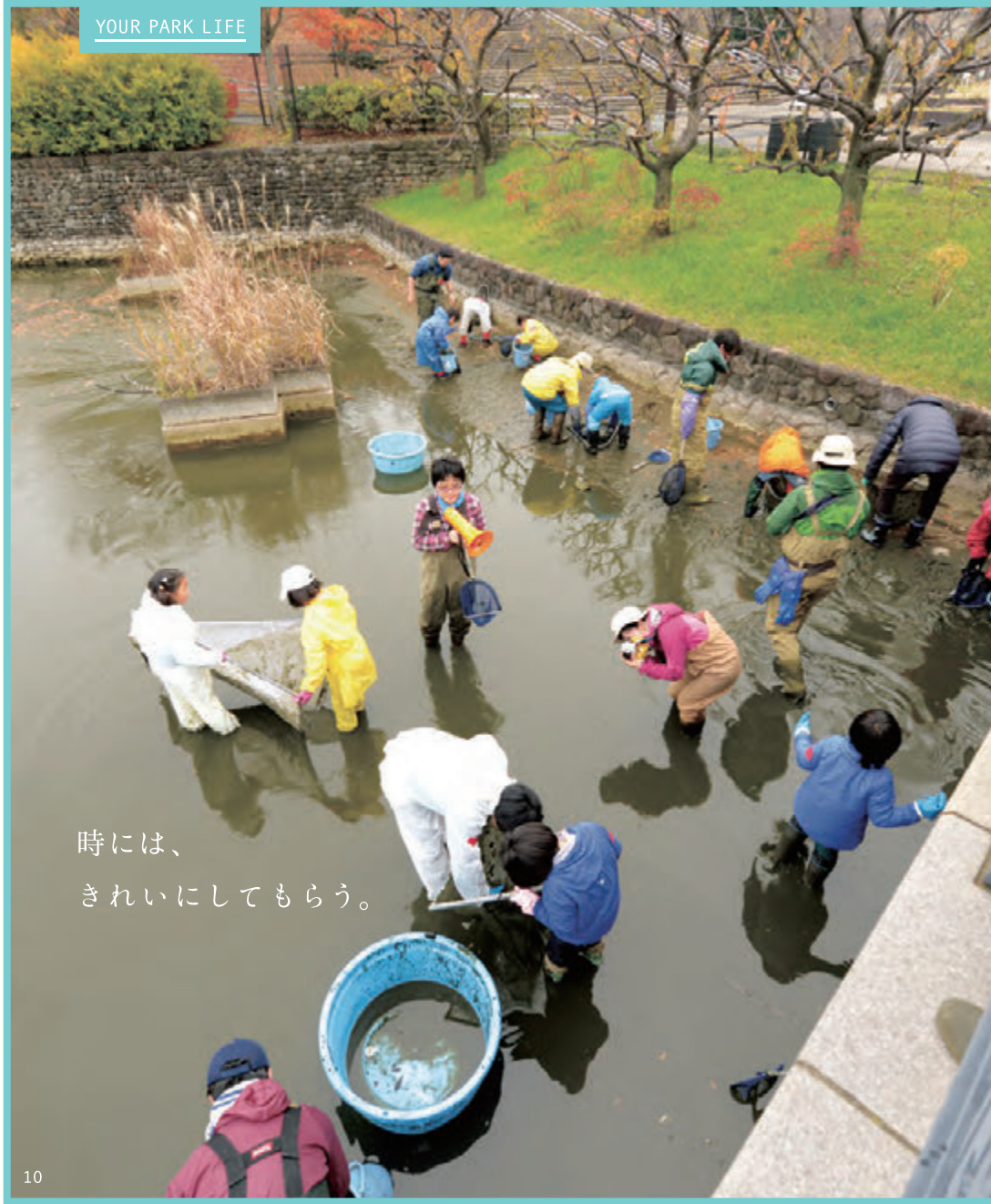
ホトケドジョウ

地表に降った雨は、地下に浸透し、やがて窪地や崖の下などで湧き水として顔を出します。湧き水は地形によって姿を変え、浅く早い流れができたり、広く深い池をつくったりします。この水がかたちづくる微妙な変化が、生きものたちにとってはとても大切です。

カワセミは小魚の動きがよく見渡せる開けた水面を、ニホンアカガエルは産卵しやすい浅い止水を、ホトケドジョウは流れのある冷たい湧き水を好みます。また、同じトンボでも、オニヤンマは浅く多少流れのある水底の砂泥、キイトンボは植物が豊かな流れのない水辺の水草、とそれぞれ産卵場所が異なります。

このように、多様な生きものを育むには、変化に富んだ水辺が必要です。公園では、さまざまな自然が織り成す多様な環境を、貴重な生きものの生息場所として保全しています。

時には、
きれいにしてもらおう。





かいぼりで見つけた池の生きものを
子どもたちは真剣なまなざしで観察。



モツゴはクチボソの
名でも親しまれてき
た日本の在来種。

むかしから農地のため池では、だんだん溜まっていく落ち葉などを掃除をするため、地域が一体となって、定期的に水を抜いて手入れしていました。池の水をぜんぶ抜き、生きものを捕獲し、底泥の天日干しをして、水質を浄化する。これを「かいぼり」と言います。

公園の池は、大規模な清掃が行われにくく、外来種の問題なども目立ってきてしまいました。そこで、公園ではかつて行われていた「かいぼり」を復活させ、武蔵野本来の生きものが好む水辺環境を整えています。パークレンジャーやボランティアなど地域みんなが一体となって、ヘドロや外来種を除去し、底泥を干す。こうして環境改善がされた公園の池は、人も生きものも過ごしやすい、地域のいい場となるのです。



① 玉川上水 上水小橋

江戸時代に作られた上水道設備。上水小橋付近では水辺に降りることができる。



② 南沢湧水群

1日約1万トンの地下水が湧き、落谷川と合流。野趣あふれる自然の水辺が散策できる。

水がめぐる武蔵野台地マップ

武蔵野台地は青梅を扇頂として、奥多摩の山々が崩されてできた扇状地です。その北端には荒川、南端には多摩川が流れ、東京湾に向かってなだらかに下がっています。武蔵野台地の上に降った雨は地中に染み込み、地上と同様になだらかに東京湾に向かって流れています。その途中、湧き水として地上に出た水は野川に流れたり、井の頭恩賜公園や善福寺公園などで池を作ったりしています。



③ 狭山・境緑道 馬の背
多摩湖から境浄水場までの水道管の上に敷いた緑道。フデリンドウなど貴重な野草が残る。



④ 武蔵国分寺公園 霧の噴水
真夏の暑さにミストのシャワーが気持ちいいと人気。毎年5月～9月頃稼働する。



⑤ 武蔵野公園 じゃぶじゃぶ池
5月～9月の土日には小さな子どもたちの水遊び場となる。



⑥ 野川公園 わき水広場
国分寺崖線から流れ出る天然のわき水にふれあえる、野川とともに人気の水遊び場。



⑦ 浅間山公園 水手洗神社
水神を祀った小さな祠があり、万病に効くと言われた湧き水が少しずつしみだしている。

＼ 参加者募集中！ /

だれも知らない水のはなし

NEWS

むさしのカレッジ「武蔵野の台地と湧水—日本の国土の豊かさの象徴として」

講師：千賀裕太郎氏（東京農工大学名誉教授、農林水産祭天皇杯審査会長）

古代から一貫して多くの人口を維持して来た日本列島の真の”豊かさ”について、武蔵野台地等を材料にして理解を深めます。

（午前：屋内での講義 午後：野外レクチャー）

【開催日時】2018年5月27日（日）10:00～15:00

【対象】中学生以上 【定員】先着30名 【参加費】500円（保険料、資料代含む）

【場所】都立野川公園自然観察センター（東京都調布市野水2-2）

【申込先】都立野川公園 TEL 0422-31-6457（公園HPからも受付）

【アクセス】JR中央線・武蔵小金井駅南口から京王線調布駅北口行き京王バスにて「野川公園一之橋」または「二枚橋」バス停下車徒歩5分

※雨天などの場合は内容が変更になることがあります

東京農工大学
千賀裕太郎名誉教授



春の野川を歩く
レクチャーも
あります

ヴィンテージのピクニックカップ

Episode.9

武蔵国分寺公園の南側、ふつくと盛り上がる岸線の森、薫風が彼女のシャツを膨らませ、まだ淡い青葉が陽を透かし揺れる。その影が足元に散らばり、僕は水底にいるようだ。

石段を降りると「真姿の池」があり、滾々と水が湧いている。ここは野川の源流の一つ。20km東の二子玉川で多摩川に合流するまで、崖線の湧水を集めて流れる。

生まれたての細い野川は、きらきらと小石をころがし、ゆるゆると水草を揺らし、住宅街に入っていく。そこからどうしても川沿いを歩こうとすれば、幅50cmもない「猫道」を行かねばならない。ニツと笑って彼女が先に行こうとする。クレソンが花ざかりだった。

三面護岸がしばらく続いたが、新小金井街道を過ぎると「野の川」が突然息を吹き返す。ここからは両岸に幅10mほどのグリーンベルトが設けられているのだ。散歩のおじさんが「あつちに降り口がありますよ」と言った時にはもう、彼女は川岸にいた。「こんな道ならいくらでも歩けるわ」

こういう時の彼女は子どものように、とても大学生の母親には見えない。

水の流れが草に見え隠れし、覗き込めば川底をカワニナがゆつくり歩いている。コサギが足をゆすり、小魚を追い出す。ホトケノザ、ハコベ、木陰にヒメウズ、春の花

があふれる土手で、僕はポットの珈琲を飲む。

「川は草の中を流れるのがいいわね」
「鳥や魚もいないとね」

1970年代、野川は日本で一番汚い川だった。下水道の完備で清流に戻つたのは平成になってから。あのころの東京の子供に、身近な川で生きものに会つた体験はないのだ。

2歳くらいの子がカルガモを追い、水際でお父さんに抱きあげられる。遠くに見えた大きな鳥に、携帯を持った彼女がゆつくり近づく。ふわりと飛び上がったのはダイサギ！その優雅な白い羽で、心がひととき宙に浮く。

源流から川に沿い2時間。武蔵野公園の広大な原っぱが見えてきた。空が一気に広がって、川にたくさんの子どもがいる。たまたま彼女が歓声を上げる。

「川が武蔵野に滑り込みますー！」
「これが野辺の川野川です！」

隣の野川公園まで川沿いに点々と見えるのは、子どもたちの白いシャツか？さつき飛んだダイサギもいるか？

蜂須賀 公之

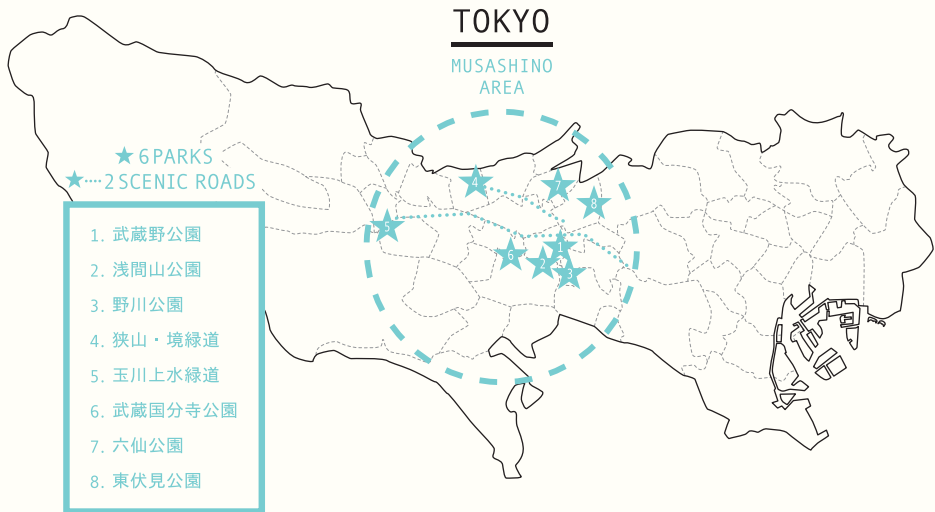
はちすか 公之ゆき


武蔵野生まれ、武蔵野育ち。東京の自然をこよなく愛するレンジャー、インテリブライター。

西武・武蔵野パートナーズ

武蔵野エリアにある都立公園の指定管理者「西武・武蔵野パートナーズ」は、2011年より武蔵野エリアの公園と緑道を管理してきました。2016年からは西武造園(株)・NPO法人NPO birth・ミズスポーツサービス(株)に、一般社団法人防災教育普及協会を加えた共同事業体として、新たなスタートを切りました。

「人・自然・まちが元気になる公園に」をコンセプトに、武蔵野の自然と文化を大切にしながら、さらに公園の可能性を広げるため、みなさんとともに、元気になる公園づくりをすすめます。



発行：西武・武蔵野パートナーズ TEL:0422-31-6457(都立野川公園) <http://musashinoparks.com> 

発行日：2018年5月1日

デザイン：川上明子

写真：井上茂(P2-P3)・NPO法人NPObirth(P4-P11、P14)

編集・製作：西武・武蔵野パートナーズ/リュエル・スタジオLLP

印刷・製本：シナノ書籍印刷株式会社

表紙写真/都立武蔵国分寺公園「武蔵の池のカルガモ」(撮影：蜂須賀 公之)

MUSASHINO PARK-LIFE MAGAZINE

SEIBU・MUSASHINO PARTNERS

<http://musashinoparks.com>